

くらき永田保育園便り



2月の予定		
1	火	
2	水	陶芸色付け (いきいき)
3	木	豆まき
4	金	
5	土	小さな表現者展
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	建国記念の日
12	土	布団乾燥
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	久保先生わらべうた
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	天皇誕生日
24	木	
25	金	新入園児説明会
26	土	
27	日	
28	月	

臨時休園のご協力ありがとうございました。心配していた感染拡大を防ぐことができ保育園が再開できたこと嬉しく思っています。さて、早いもので令和3年度も残すところ2ヶ月となりました。今週実施される「小さな表現者展」では、一年間の子どもの育ちについて皆さんとお話しできること楽しみにしています。暗いニュースばかりを耳にする毎日だからこそ、子どもたちは元気に遊び、生活できるように配慮していきます。

子どもの表現を聴く

子どもたちは何かテーマを与えられたときだけ表現活動をするわけではありません。大人はともすると「観察画」「想像画」「生活画」といった言葉で子どもの絵や表現活動を分類しがちです。でも、子どもたちは絵を描くために観察したり、想像したり、生活したりしているわけではありません。また、様々な表現技法を子どもたちに教え込んでいくというのも逆に子ども自身の「描きたい」といった思いを阻害してしまうこともあります。

実際の保育園での生活を振り返ってみると「すごい見つけた!」と大型遊具の裏から見つけてきたダンゴムシの絵を見せてくれた子どもにとっては「上手に描けているね!」といった大人の評価の言葉よりも「おおきいね~、どこで見つけたのか教えてよ!」の声掛けの方がずっと素敵な子どもたちの笑顔に出会えたりします。また、「チョウチョが池で遊んでいるの」と話してくれた子どもは絵を描きながらきっと本気で蝶と楽しい時間を過ごしているのでしょう。

小さな表現者展を前に保護者の皆さんと共有したいのは、私たち大人はそこに描かれている色や形の出来上がりよりも、自分の持っているものを活用して描き出そうとしている子どもの世界にもっと耳を傾けましょうということです。

たとえ、子どもが雄弁に語ってくれなくても、また、その表現活動の現場にいなくても子どもたちの絵や造形物に耳を傾ければ、作品が饒舌に語りだし、子どもたちの声を聴きだすことができると思うのです。ぜひ、子どもたちの感じた世界を想像しながら表現物を観ていただき、保育士と子どもの育ちを語り合いたいと思います。

保育園からのお知らせとお願い

①3月31日(木)は次年度準備ということで、例年通り18時30分までの保育(時間延長サービスがありません)となります。年度末のお忙しい時期ではありますが、保育園運営にご協力をお願いします。

②先月の園便りで、お知らせした通り、会計処理の関係上 主食費、おむつ代の集金を2月、3月分をまとめてお支払いいただきますようご協力下さい。 支払方法についてご質問等のある方は直接園長までご相談下さい。

木育係より

今月は野鳥についてと新しく生まれ変わったポタジェガーデンについてご紹介したいと思います。

まずは野鳥についてです。寒い日が続く、草花も少なくなってきた中、野鳥を呼ぼうと木育係で動き始めています。園の周りにはキジバト・メジロ・ヒヨドリなど様々な野鳥が生息しているので、野鳥が来られるような仕掛けが有効か話し合い設置していきたいと思っています。

次に新しく生まれ変わったポタジェガーデンについてです。先日、ボランティアのグリーンアンバサダーの皆さんと苗植えを行いました。新しい草花の中から2つ程ご紹介したいと思います。1つ目はグレープフルーツミントです。グレープフルーツミントは全草にグレープフルーツに似た香りがあり薬用や料理・菓子の香り付けなどに使用されます。2つ目はステビアです。ステビアはキク科の植物で葉を食べるととても甘く、砂糖の約200倍の甘さと言われています。調べてみると面白い草花がたくさんあるのでお時間がある際には正面玄関に入って右手にあるポタジェガーデンを観察してみてください。



各クラスの【小さな表現者展の舞台裏の様子】をお伝えします！

にこにこ

にこにこ組の子どもたちは様々なモノとのあいの中で、友だちや保育士と一緒にたくさん遊んできました。

中でも自然物（土や葉など）は「何だろう…」「触ってみようかな…」と触れるのをためらっていた子どもも“遊び”を通して新しい世界が広がっていきました。

その中で室内ではペットボトルマラカスを振ったり、床に打ち付け『もぐらもっくりしよ』をうたいながらわらべうたを楽しみました。そこからタンポ遊びへと発展させてみました。小さな表現者では子どもたち1人ひとりの“表現”をお伝えしたいと思います。

よちよち

よちよち組は「出会ったものとのかわり」がテーマです。子どもたちの身近な環境には魅力がいっぱい！素材遊びなどの活動だけではなく、お外に吹く風や部屋に入ってくる日差し…そんな小さな世界に不思議を感じています。「これなんだろう？」「さわってみようかな？」と自分から手を伸ばす子もいれば、じっと見つめてみたり、ドキドキするけどそっと触れてみたり… 出会ったものとのかわり方は一人ひとり違ってその中で見せてくれる表情も様々です。

特に乳児の森では、1年間じっくりと遊んできた中での子どもたちの姿にそれぞれの子が感じた「おもしろい！」「もっとやってみたい」気持ちが伝わってきます。表現者展ではおうちの方と、子どもたちが過ごした楽しい時間を一緒にお話しできたら嬉しいです。

すくすく

すくすく組の子どもたちは、少しずつ手先も器用になってきて、様々な道具を使うことを楽しむようになってきました。お世話をする中で愛着をもった野菜でスタンプをしたり、個人教材を使うようにもなりました。

初めてのハサミでは手を開いたり閉じたりする事に苦戦しながらも「楽しい！楽しい！」と全員が興味を持って取り組みました。また、初めての糊も保育士が見本を見せると目を輝かせ、「やりたい」と糊の中に指を入れると「クリームみたい」「こんなにとっちゃった」とベタベタになるのも気にせず触り心地を楽しんでいます。まだまだ使い方も不慣れで、形や分量もまちまちですが、小さな表現者展では、子どもたちのやってみたいという想いや心が動いた瞬間に寄り添い、ひとりひとりの表現をお伝えできたらと思います。

給食室から

年明けから、あっという間に1ヶ月が経ちましたね。2月3日は節分です。節分の豆まきは、季節の変わり目に起きやすい体調不良（鬼）を払い、福を呼び込むために行ないます。豆まきに使われる大豆。お豆腐や味噌、しょうゆなど大豆を加工した食品は、給食でもよく使いますが、意外と大豆そのものを食べる機会は多くないのかなと思います。大豆は「畑の肉」と呼ばれるほど、たんぱく質が多く、栄養に富んだ食品です。節分の日の給食には、大豆を炊き込んだ「やこめご飯」が出ます。煎り大豆を使っているので、香ばしさが引き立って美味しいです。ぜひご家庭でもお試しください。

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続きます。栄養のある食事をとって、寒さに負けない体を作りましょう。

異年齢

異年齢では「子どもたちの表現を聴く」をテーマに表現者展に臨んでいます。

4月の時には絵の具やハサミ、廃材等を使いたいが、どう使っているのか悩んでいた子どもたち。設定遊びや課題の時間で取り組んできた造形活動を通し、絵を描く事や道具の使い方、自分でイメージをする事が積極的になってきました。いきいき組の子どもたちが作業をしている姿を見ながらわくわく組やのびのび組の子どもたちも近づいていき、見て真似をしたり、聞いて教えてもらう姿が見られました。

そういった遊びの中での経験を通して道具を使った表現活動に関わってきました。今では“やりたい！”という気持ちが強く、「絵の具で塗りたい！」「これを使ったらいいんじゃない？」と廃材を選んで持ってきたりと自ら環境に働きかけることが増えました。作品に対して「これはね…！」と前のめりで自分の作ったイメージははっきりと伝えるようになってきて、堂々とした姿が見られます。また、いきいき組の子どもたちは同じイメージを共有しながら作る共同作品作りの中で「どうしようか」と話し合いながら進め、意見を出し合って決めたり、役割分担をしながら作っていました。

また異年齢が関わって一緒に作り、自信がない子も自分がやりたいと思えるところに参加して作っていった作品もあります。のびのび組・わくわく組の子どもたちが作っているものをいきいき組の子どもたちが仕上げをするなど、様々な形の共同作品も展示する予定です。

この様々な思いを小さな表現者展で職員も伝えていきたいので、普段の様子も踏まえたお話を含め、ぜひ子どもたち自身から作品に対する湧き上がる思いを聴いてほしいと思います！

